

著者 スターリング・シグレイフ & ベキー・シグレイフ

著者から

天国へのドア 一九九九年 スターリング & ベキー・シグレイフ

Yamato Dynasty は十九世紀の明治維新からの五世代の男女を対象とした大皇家の伝記シリーズ第一回です。

私達はこの本を見てみよつといつ学者に聞いてみたい。すべてがすべてが終わっていないじゃないか。」「そう、何もだ。

ほとんどの本は裕仁の事と、彼が皇后、兄弟や他の者への関与を無視し太平洋戦争の責任をとるかどうかに焦点をあてている。私達は成りあがりの大変独特な国の君主として又格別な世界権力に反抗し、隆盛を経験した君主の個性、精神、致命傷、手柄、失敗と重大な系図などすべてを表現しよつと努力した。

これは、最近出版された裕仁の弟、高松宮の日記からもたらされた最初の書籍であり、この日記の日本語第一版は八巻である。

又、代替天皇と見られていた、裕仁の弟、秩父宮の奥方が出版した秩父宮の回想録のおかげで、第二次大戦の間の秘匿しよつとした生活が始めて明らかにされた。

裕仁の日記の断片はすでに表面化しているが、天皇家はそれらを出版禁止しよつとした。しかしながら私達は可能な限り日本人の情報源や専門化を使用した。

この素材を集めて興味深い発見があった。

歴史家は前から皇太子妃を無視している。今までに私達は君主の回りの目立たないキリスト教徒の組織に気づかなかった、それは裕仁の母、節子皇后を中心とし第二次世界大戦の戦争犯罪の訴追から皇族を救うために素晴らしい役目を果たした。

この発見は他 影響を及ぼす。

どの本も、日本とか日本の皇室の完全で広範囲なものになることはできなかった。

Yamato Dynasty は私達の本が日本で出版されるまでの六十年間に発見された陰謀

を描いたもので、その中心は歌舞伎の演出の中で導き出した。

大和の名は京都の近く大和川からきている。それは古代に九州で起きた皇室が、最初に確立したところだ。この紀元を大和朝廷といふ。日本人はある時代大和民族とよばれていた。伝統的に彼らは単一の帝国を持ち、万世一系「伝説時代の前の大和朝廷から連綿と続いていた。だから彼らを大和朝廷と呼ぶことを選ばざるをえない。それは世界の最も長い支配の帝国である。帝国は支配したのだらう。いや支配されていたのだ。私達は君主の裏の独裁者にも注意を注ぎ、そしていくらかのびくりするほどの驚きを約束しよつ。京都御所の正門は天国への扉とよばれている

日本皇室の秘密の歴史

訳者から読者へ

私が今回、Yamato Dynasty を翻訳し始めたきっかけを説明します。

本来、私は日本の古代史の研究がたく、いろいろと文献をあさっていました。その中で、明治天皇はすり替えであると主張する本に出会いました。鹿島昇氏です。その主張はなかなか鋭く簡単には否定できないものがあります。

氏は、中国史の捏造や日本史のでたらめをあげています。

さて、シグレイフ氏のこの本をどうしても読みたくなつた原因は、鹿島昇氏の「歴史捏造の歴史」を読んでいて時に次の文章があつたからです。

引用します。(p50)

マサチューセッツ工科大学のジョン・ロダワーは米国の公文書館で天皇裕仁の発言をみいだした。

天皇は「日本人の心にはいまだに封建制の残滓がたくさん残っている。それを根こそぎにするには時間が掛かるから占領は短すぎないほうがいい」と言った。(ホイットニー文章)

「神道を奉じる分子とその同調者は反米的だから警戒を要する」といった。と言つものである。裕仁の発言は決して日本国の象徴たる者にふさわしいとはいえない。まさに偽帝の言と言つべきである。イギリス人のスターリング・シグレイフは「the yamato dynasty」の「第十章、汚れた手」の中で「敗戦直前、昭

和天皇の側近たちがひそかにスイス銀行に財産を隠匿した」と述べている。事実、横浜正金銀行の株式の三十二％は裕仁名義であった。・・・(引用 終わり)

これを読んだ時にどうしてもこの本を読まなければとおもいました。しかし邦訳がされていない。仕方がないので、とにかく原書だけでも手に入れておくことにしました。

シーグレイプ氏のこの本『yamato dynasty』は情報によると大手の出版社が版權を買い取ったうえで出版をしなかったものらしい。

最近、講談社が「プリンセス・雅子」(オーストラリア)の出版を断念した、と発表した。内容に問題があるということだが、間違いは裁判なり、言論で対抗すべきであって、読みたい読者の知る権利はどうなるのだろう。版權を盾にとつて、出版しないとどういいうけなのだ。これは言論、出版の自由を踏みじることにならないのか。

今、自由が脅かされている事を皆さんはご存じないでしょうが、ジャーナリストの森田実氏は電通の批判をしたため、放送業界から追放されています。植草教授は小泉批判をしすぎて痴漢にされています。菊のタブー、鶴のタブー、桜のタブー、ジャーニーズのタブー、すべて現実に存在しています。

現在テレビで放映されるのはすべてそのフィルターを通ったものだけだと知るべきです。真実はほとんど伝えられません。

今回、この本は十ヶ月以上を費やし翻訳しました。しかし、版權もないし出版する権利もありません。でも、どうしてもこの内容を知って欲しいと思い、お金もないので少量だけでも印刷し知り合いの方へ頒布します。ぜひお読みください。英語の初心者のため多少の誤りや誤解はあると思います。

何故外国人に日本の歴史を教えてもらわなければならないのか。それはこの本の内容を読めば判つてもらえるでしょう。特に七章以降、ほとんどの日本人は知らないことが多いのではないしょうか。

信じられない人、信じたくない人もいるでしょうが、それは私の責任では在りません。しかし、現在の日本の状況を考えた時、そうだったのかと思うこともあると思います。まずは、プロローグは絶対にお読みください。そして、時間のない方は八章ぐらいから読んでいただいてもいいと思います。残りは暇な時でも読ん

てください。歴史に興味がある人なら第一章から順に読んでも損はありません。あなたは日本でこの本を読める数少ないラッキー？な人なのです。

平成十九年四月

翻訳者

xxxxx

目次

プロローグ	將軍と天皇の出会い	三ページ
第一章	天皇の考察	十二ページ
第二章	ピスマルクの口ひげ	二十四ページ
第三章	悲劇の皇子	三十八ページ
第四章	籠の鳥	四十七ページ
第五章	籠から出た天皇	五十五ページ
第六章	山県の亡霊	六十四ページ
第七章	邪悪な心	七十四ページ
第八章	戦争での皇子たち	八十六ページ
第九章	天皇のお清め	百三ページ
第十章	汚れた手	百四十四ページ
第十一章	日本の闇	百二十二ページ
第十二章	闇の奴ら	百三十三ページ
第十三章	太陽のかげり	百四十三ページ
あとがき	訳者から読者へ	百六十ページ